

科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術会議有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成24年9月27日（木）10：00～10：36
- 場 所 合同庁舎4号館第3特別会議室
- 出席者 園田政務官、相澤議員、奥村議員、今榮議員、白石議員、中鉢議員、平野議員、大西議員、倉持統括官、中野審議官、吉川審議官、大石審議官

○ 議事概要

議題1. 113番元素の合成について

- 相澤議員 本日は当初御案内致しました議事次第に急遽変更を伴わなければいけない程、大きなニュースが入ってまいりました。もう既に報道で御存知だと思いますが、本日の朝刊だとかテレビでも大きく報道されております。理化学研究所で第113番の元素が見出されました。いよいよ、この命名権に関わるというところに進むという状況でございます。周期率表には今まで日本国に由来しての命名は一つもなかった訳ですが、今回、こういうことが実現する可能性が高まったという状況になってきた訳であります。そこで、本件につきまして、文部科学省から説明頂きます。

<文部科学省 原室長から説明>

- 相澤議員 有難うございました。朗報でございますが、まだまだ命名権のところまでには少し時間と、それから、これは色々と国際的な努力も必要であるという状況でございます。何か御質問があれば。

- 奥村議員 大変明るいニュースで、大変嬉しく思っています。教えて頂きたいのは、森田研究員は前2回で既に合成に成功されている訳で、それで今回3回目でこれだけビッグニュースになったというのはどういうことなのかと。理由ですよね。それから、ロシア、アメリカと崩壊ルートが違うのを、第三の崩壊ルートを今回初めて見つけたことで、言ってみると優先的な確証を行ったということなのか、その辺りを少し教えて頂きたい。

- 原室長 1点目の御質問でございますが、森田研究員、1個目、2個目、3個目と全部リーダーとして関与をしております。1個目、2個目の時に比べて今回は大きなニュースになったというのは、恐らく実験データが積み上がってきて、命名権に一步近づいたということで大きなニュースになったのではないかと想像致しますが、そのような状況でございます。

それから、ロシアのグループとの関係でございますが、ロシアのグループの実験は、113番というよりもむしろ115番を作ることを念頭に置いた実験。実は、113番はまだ名前がついてございませぬが、右上の表で114番、それから116番というのは既に名前がついたものがございませぬ。114番と116番も比較的最近名前がついたものでございませぬが、今回、113番を争っているということに関しては、ロシアのグループは115番を作ることを目的とした実験で、115番が1回アルファ崩壊すると113番になる訳ですが、115番が出来た過程で113番が出来たということで、その先がうまく既存の実験データとつながっておらず、理論的に少し弱いということで、ロシアのグループにはまだ命名権が行っていないと。今回の理研のグループは分かっているところまで全部つながったので、大きな一步であるということでございます。

- 相澤議員 只今の御報告にありましたように、命名権の確定に至るまでには色々なステップがある訳ですが、例えば総合科学技術会議としてある意味では援護射撃的に何かし得ることがあるのかどうか、もし具体的にあれば。

- 原室長 具体的には、先程申し上げました合同作業部会という科学者の団体が、合計で6人の各国からの研究者が今審議をしているという段階でございます。この実験のどこに優先権があるかというのは、言ってしまうと、純粋に科学的な理屈の世界の問題ではございませぬが、総合科学技術会議の側面からの支援につきましては、こういう基礎科学の分野に色々な資源を投入して頂くことのバックアップをお願いしたいということと、命名権につきましては、日本とし

ても科学技術政策のトップの部分からも非常に期待をしているというようなメッセージを発信することによって、間接的に日本を応援して頂くということを是非お願いしたいというふうには思っております。

○中鉢議員 分離器或いは加速器が肝になるような気がしますが、こういう研究をやるときに一番難しいのはどういう点にあるのでしょうか。この研究の難しさといいますか、困難性は。

○原室長 直接の研究者ではないので、あまり具体的な研究の面については若干不案内のところがございしますが、今回、この実験の装置につきましては、真ん中の右側に線形加速器RILACと書いた図がございします。一番右側のほうに書いてあるイオン源というのと可変周波数RFQというこの2つの装置につきましては、理化学研究所がオリジナルの技術で開発したものでございまして、イオンビームがたくさん出来るとか、或いは目的とする、元素同士をぶつけて113番を作るとはいつでも、単純にぶつければいいだけではなくて、どのぐらいのエネルギーでぶつければうまくつつくかという、そういう微妙な調整とそれから微妙な調整に基づく安定したビームの供給というのが非常に重要になります。そういう目的とするエネルギーにビームを持っていくという、細かい制御がうまく出来るというところに、そういう装置が出来たということで今回の実験がうまくいったという背景があるかとは思いますが。

○事務局（中川参事官） 先程の相澤議員の質問の関係にも関連して、少し補足させていただきます。恐らくこの周期率表の中で、113番のところにある意味日本の旗が立つかどうか、アジアというものが立つかどうかという競争が、今熾烈に行われているというふうにも見える訳で、この成果は成果として画期的なものだと思うのですが、この後の段階、確か理研のほうに参りますと、「教科書を変える成果だ」といった形で、非常に分かりやすくPRされていたかと思いますが、これは、見方によれば、私ども総合科学技術会議における今までの議論からいきますと、例えば白石議員がいつも科学技術外交というのは盲腸ではないのだぞとおっしゃっている訳ですが、本件は、逆にサイエンスコミュニティ或いは化学或いは物理の世界で、科学の中の最先端のところ、熾烈な、覇権と言っては少し問題かもしれないのですが、そういうもので日本の旗がここに立っていくという、非常にグローバルな意味としても大きいということがあろうかと思えます。命名権について、サイエンティフィックな、もちろん純粋なそういうものに裏づけられたものということで検討されるものと思えますが、そういう意味で見ると、ここで単に成果が出た、これでいいものが出来そうだということ以上に、国としたらインターナショナルとしての、サイエンスではあっても、まさに外交という言い方がふさわしいのかどうか分からないのですが、そういった意味づけ、これからのこれへのスポットの当て方というものが国としてはあるのかなと思うのですが、その辺のところは、なかなかどういう言い回しがいいのか分からないのですが、ここの優先権のところについて、言える範囲でいいのですが、何かそういったような参考になるようなことがあれば教えて頂きたいと思えます。

○原室長 優先権は是非とも獲得したいというのは、教科書を書き換えるような成果でございしますので、是非日本に命名権をということで、我々もこれから努力をしていきたいというふうに思いますし、理化学研究所のほうでも関係の研究者、審査をするような研究者の方への情報発信というのは精力的に行っているということだと思います。色んなところでこの成果を色んな方に発信して頂くということ、それから、そのようなコミュニティの中で日本に確かに優先権が認められるような大きな成果が出たのだということを各方面から声を出して頂いて、それが間接的だとは思いますが、合同作業部会での審査にいい影響を与えるということはあるかと思えますので、なかなか組織的にやるというのは難しい部分もございしますが、それぞれの議員或いは関係のそのような会議の機会とかいうことがあれば、是非PRして頂いて、日本に命名権が与えられるということに一步でも近づくように御協力をお願いしたいというふうには思っております。

○相澤議員 それでは、本日のこの議題については以上とさせていただきます。

議題2. 平成25年度科学技術関係予算概算要求について

○相澤議員 議題の2番目ですが、平成25年度科学技術関係予算概算要求についてでございます。概算要求の科学技術関係、全体の姿が見えてまいりましたので、今日はアップデートした数字をもとに全体像の説明をお願いします。

<内閣府 鈴木参事官から説明>

○相澤議員 要求段階のものでありますが、かなり大幅な増という形になっております。主な増減の中身は今、御紹介頂きましたが、現段階ではその程度というところでの御理解を頂ければと思います。それでは、御質問ありますでしょうか。

○奥村議員 最初のページに、地方公共団体における予算というのを毎年、大体4,000億ぐらい積んでいる訳です。これの原資というのが、例えば国から出る地方交付税のようなものが都道府県で科学技術予算として使われる、そういうことってあるのですか。我々はこの4,000億の中身をほとんど見ていない。各県も予算はみな厳しいという話になっていますので、こういうお金というのはどこから出てくるのかなという、少し素朴な疑問なのです。国税との関係でいうとどんなことになっているのでしょうか。何か分かったら教えて頂けると有難い。

○事務局（鈴木参事官） 実際これは文科省のほうでいろんな自治体に聞いて集計をしているので、あまり細かいことは分からないのですが、恐らく推察するには、そういう交付税、交付金のようなものも原資にして、科学技術関係の活動が、自治体もそういうものをベースに行われている部分もあるかと思っておりますので、含まれているのではないかと思います。確認をさせて頂きたいと思っております。

○中鉢議員 確認ですが、4兆1,000億のこの合計額というのは、「GDP比1%」に対応する数字ですか。

○事務局（鈴木参事官） 1%を計算するに当たって、これにプラスして、今ほどありましたように地方自治体の分も加えてGDP比としております。

○中鉢議員 4,000億ですね。

○事務局（鈴木参事官） はい。そういう形です。

○中鉢議員 聞き逃したのかもしれませんが、大きく増額した省庁がいくつかあります。パーセンテージはともかくと致しまして、経済産業省の増額は、グリーンイノベーションに重点化した結果だと思えます。文科省はなぜここまで増えたのでしょうか。

○事務局（鈴木参事官） すみません。細かいものが色々と積み上がったのことで。

○中鉢議員 細かいのが積み上がったら増えた。

○事務局（鈴木参事官） はい。

○中鉢議員 ということは、あまり特徴的なことはないということですか。

○事務局（鈴木参事官） 細かいと言っても200億円、100億円。そのぐらいのレベルのものです。

○中鉢議員 機密上の問題があるのかもしれませんが、防衛省も説明出来る範囲だと何ですか。

○事務局（鈴木参事官） 防衛省の部分につきましては、色んな試作品の国庫債務負担行為の歳出化がこの25年度に重なったことが要因になってございます。

○相澤議員 それでは、科学技術関係予算がこういう全体の姿を示しているということで御理解

下さい。総合科学技術会議としては現在、アクションプランの後、重要施策パッケージのヒアリングを行っているところです。さらに、基礎研究とそれから人材育成関係、これもヒアリングの段階に来ているということでございますので、これから更に最終的に予算が確定していくところのプロセスの非常に厳しいやりとりの進む段階かと思えます。それでは、只今の説明は以上とさせていただきます。本日の議事は以上でございますが、園田政務官に、今の予算の全体の姿も分かったところなので、我々が進めている予算編成への取り組み等々のことにつきまして、何かコメントをして頂ければ有難いと思えますが、如何でしょうか。

○園田政務官 本日も真摯な御議論を頂きまして、本当に有難うございます。今回まで本当に議員の皆様方には第4期の計画に基づきまして、様々な形でお取り組みを頂きました。同時に、それを更に進めるべく、今年のこの予算編成プロセスの中においては、アクションプランにおけるいわば指針を先に御提示を頂いて、私ども政務もそれを受けさせて頂き、また、各府省の皆様方ともしっかりと意思統一をさせて頂いた結果が、まずこの概算要求にしっかりと表れてきているのではないかなど。メリハリをつけると同時に、いわゆる特別重点枠も含めて、この先の方向性をしっかりとお示しを出来たのではないかなというふうに思った次第でございます。その上においては本当にアクションプランの策定も含めて、議員の皆様方には本当に色々な御示唆、御指導を頂いたことに心から感謝を申し上げたいと思っております。同時に、まだ今後、予算編成の過程の中においては、施策パッケージと、そしてまた基礎研究及び人材関連の部分が残っておりますので、そのフォローアップも含めてまた御指導を引き続き頂ければというふうに思っております。大変重要な局面に差しかかっているというふうに思っておりますし、昨年までの予算編成の中における総合科学技術会議の果たす役割というものが、いわばもっともっと力を発揮しなければならないのではないかなという様な様々な御意見もある中で、本当にまさしくその成果を今回表すべく取り組んで頂いている結果ではないかなというふうに思っておる次第でございます。古川大臣ともども、この間、議員の皆様方から色々な御指導を頂いて、私どもとしては精一杯取り組ませて頂くと同時に、野田総理に対しても議員の皆様方から直接御意見を頂戴するなど、科学技術の振興に向けた大きな取り組みをしっかりとお示ししていきたいと、この25年度予算の編成の中においても示していきたいというふうに考えておるところでございますので、是非また引き続きの御指導を頂ければというふうに思っています。

そしてまた、来週から内閣改造も含めて新たな体制になる訳でございますが、当然、野田総理はこの科学技術の振興に対して、やはり人類のフロンティアとともに、科学技術をしっかりと見据えて、日本の復興或いは再生というところをしっかりとお示しをしていきたいという強い思いは持っておりますので、そういった意味では、新しい体制の中においても総合科学技術会議の果たす役割というものに対しては十分注目をさせて頂くと同時に、それを政務としてもバックアップしていく、その覚悟と決意は持っておるところでございますので、是非いろんな体制の中においても、私も責任を持って次の体制に今まで議員の皆様方が行って頂いたことをしっかりと引き継いで、申し送りをしてまいりたいというふうに思っております。

色々私もまだまだ未熟なところもございましたが、本当にこの間、議員の皆様方から御指導を頂いたことに心から感謝を申し上げさせて頂くとともに、これからの科学技術の発展、きょうは大変嬉しいニュースも飛び込んできた訳でございますが、そういう意味において、常々私も申し上げておりましたが、次の世代の研究者は夢と希望とそしてこの日本の再生というものをもう一度確認をしていく、そういう場にもなって頂けるものではないかなというふうに大いに期待をさせて頂いておりますので、是非また議員の皆様方の御活躍、心から祈念をさせていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。本日まで本当に御指導有難うございました。

○相澤議員 どうも有難うございました。それでは、本日の大臣有識者会合の議題は以上でございます。

(以上)